Teaching Portfolio

2026

大学名　湘南医療大学

所　属　薬学部医療薬学科

名　前　坂本沙祐里

作成日　2026/05/29

1. 教育の責任

湘南医療大学は、学校法人湘南ふれあい学園の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を目指すところとし、この理念実現に向けて、継続的学習力、想像力、そして課題解決能力を育む教育と、エビデンスに基づいた専門知識・技術の修得を基盤とした、責任感と使命感を持って自律的、主体的に実践能力を発展させていける医療従事者の養成を基本的使命としている。高度な知識と技術とともに、豊かな人間性を育み、創造的かつ実践的な教育研究を通じ、臨床現場でチーム医療できる人材の養成、地域社会に貢献できる医療人を養成することを目的とする。

薬学部の教員は学生に対して専門的な知識や技術を修得させるだけでなく、医療人としての使命感や倫理観を培い、チーム医療や地域の健康増進や公衆衛生に貢献できる薬剤師を養成する必要がある。そこで、私はこれまで臨床の現場で働いてきた経験から、実務実習事前学習や病院での実務実習、薬学総合プレ研究等の講義を行っている。現在までに担当した科目および教育活動を以下に示す。なお、私は昨年度度着任したため、本大学外での活動についても記載する。

前職での担当科目

	科目	種別	担当	講義数
[講義]				
基礎化学	教養	選択	責任	15 コマ
食物基礎科学	教養	選択	分担	5 コマ
生化学Ⅰ	専門基礎	必修	責任	15 コマ
生化学Ⅱ	専門基礎	必修	責任	15 コマ
[実習]				
生化学実験	専門基礎	必修	責任	22.5 コマ

本学での担当科目

チーム医療論
早期臨床体験実習
後期臨床体験実習
処方解析演習
実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
薬局実務実習
病院実務実習
薬学総合プレ研究
卒業研究Ⅰ・Ⅱ
総合演習Ⅰ・Ⅱ

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私は、主体的に継続した研鑽ができる薬剤師を養成したいと思っている。主体的な研鑽とは、自分の課題を明らかにしながら、臨床実践能力を高めるように学習・成長できるよう努めることを指す。

2) 理念をもつに至った背景

大学教員になるまでは、病院薬局薬剤師業務と両立しながら社会人大学院生として、研究活動に励み、博士課程修了し博士(医療薬学)を取得した。日々わからないことが多かったが、研究と学習を継続しながら、どのような投薬が患者にとって望ましいかを考えるようにしていた。自分なりに良い投薬ができた、患者から良い反応が得られた際に、やりがいや面白さを感じ、より考え、工夫をするようになった。このような経験は、私自身がより良い医療を提供しようと研鑽した結果であると考える。以降は私自身がスキルを磨き、うまくいったと思うようになるたびに、より仕事が面白くなった。しかし、すべてのスタッフが必ずしもそうではなく、業務をルーチン化している人も多かった。やはり、患者に対してはより質の高い医療を提供したいこと、せっかく一生懸命頑張るなら報われてほしいと考える。そのためには、自身で主体的に研鑽し、臨床実践能力を高めることは不可欠であると感じ、このことから, このような理念を抱くに至った。

3. 教育の方法・戦略

前職は、管理栄養士養成校にて、基礎化学や生化学、生化学実験といった基礎科目を担当していた。管理栄養士は、人の健康の維持増進を図るための栄養指導の専門家であり、医療現場においては、患者の病気回復を栄養面から支えるチーム医療の一員として大きな役割を担っている。管理栄養士にとっても生化学は重要な基礎科目となっている。しかしながら、栄養科の学生にとって特に生化学は苦手科目であり、教えることの難しさと教育へのやりがいを感じていた。着任して学習到達度の極度に低い学生への対応に大いに悩まされた。薬学科の学生とは基本的に学習姿勢が異なり、どうすれば学習意欲を芽生えさせることができるか？といったように、より初歩的な段階の学生への対処法を考えさせられ、試行錯誤の繰り返しであり、現在の教育戦略に至ったが、今後も突き詰めていきたいと考えている。

私は、シャトルカードと題して毎講義ごと(計 15 回)、その日の講義の感想、要望、質問を書かせ(必ず何か書くように指示している)、その内容に対して遅れることなく丁寧に対応している。その活動の中で、一方通行ではなく双方向のやり取りの重要性を感じている。そのシャトルカードが有効に機能した例だが、ある学生は、真面目に取り組む姿勢を示すが、なかなか成績に繋がらない状況が続いていた。ある日、午前の講義が休講になり、午後から私の講義だけという日があった。こういった場合、多くの学生は帰ってしまう。サボらずに講義に参加したのは、たった 3 人だった。ほぼ家庭教師のように講義を進めていると、その学生が、遠慮がちに

初めて質問をしてきた。そして、講義終了後、シャトルカードに「先生独り占めできて良かった！」と初めて本心を表現してくれた。シャトルカードによりその学生にとって私という存在のハードルが下がった結果ではないかと考える。以降、その学生は私を強く頼ってくれるようになり、講義終わりに少しずつ質問をしてくれ、少しずつ成績が向上した。このような出来事は、対象学生全員に対してなかなかできるものではないが、少人数制での教育、少なくとも密に接することのできるチューターの学生には有効な手段となるのではないかと考えている。本学における特色である少人数制教育は、これまでの経験を活かす事が可能であると考えるため、どのレベルの学生にも対応できるような教育手法を見出していきたい。国家試験や就職については勿論、日々の学習や学生生活に至るまで、きめ細やかなサポートを実施する。

1) シャトルカードの導入

全講義、シャトルカード(質問等を自由に記述できる交換ノートのようなツール)を用いて学生参加型の講義を実施している。質問が多かった内容に関しては、次回の講義で補足説明するように心掛けている。

2) 受講補助資料の作成

国家試験頻出ワードを赤字、穴埋め方式で要点をまとめた受講補助資料を作成。講義終了後も赤シートを利用し、自主学習できるように工夫している。

3) 国家試験対策小テスト

講義ごとに小テスト(国家試験頻出○×問題)を作成している。講義終了後に小テストを実施し、次回の講義冒頭で解説。

4. 学習成果

授業アンケートを実施し、全質問項目約 80%の学生満足度を得ている。特にシラバスを丁寧に説明し、シラバス通りの講義であるという評価および黒板の使い方や配布された資料が分かりやすく内容理解に役立ったという評価を得ている。(添付資料参照)

5. 改善のための努力

授業アンケートより、シラバスを丁寧に説明している（82.1%）にも関わらず、シラバスを活用した学生が少ない（64.2%）結果となった。そのため、各授業回において、該当内容について確認する等、シラバスを再度確認できるよう指導する。

次に、学生が授業に積極的に参加できず（75.0%）、興味関心を持つことができなかった（75.0%）結果となった。学生が発言する機会を作るなど、授業に積極的に参加する取り組みをしていく必要がある。また、生化学は難しい内容も含むため、身近な話題を取り上げるなど、興味を持てる内容にしていく必要がある。(添付資料参照)

6. 今後の目標

1) 短期的な目標

私は学生との信頼関係が構築できていることこそが一番良好な学習環境が整っている状態であると考える。まずは、学生が主体的・積極的に学べる環境を作り、次に、論理的思考や問題解決能力を高めるような学習機会を提供したいと考えている。その第一歩は、学生との距離を縮めることが先決であると考えている。

実務実習事前学習、OSCE 及び病院・薬局実務実習でのコーディネートやサポートを担当している。学生の臨床実践能力の向上が十分であるかどうか、学生の主体的な学習状況や実践能力に関して評価を行っていく。

2) 長期的な目標

学生とは卒業後も繋がりを持ち(実習施設で勤務する予定のため十分可能)、私が描いている薬剤師像に学生が成長できているか評価し、自身の教育に反映する。これに向けて、社会人として継続教育を開始した薬剤師に対する教育効果を確認できるような教育指標も検討する必要があると考えている。実際に働いている卒業生と関わりながら、どのように自身を研鑽し、臨床実践能力を高めているかを検討する。

【添付資料】

シラバス、

授業評価アンケート